

平成 30 年 9 月 6 日

第 9 回定例会
議事録

文京区教育委員会

文京区教育委員会議事録

第 9 号

平成 30 年 第9回 定例会

日時：平成 30 年 9 月 6 日（木）午後 2 時

場所：教育委員会室

「出席」	教 育 長	佐 藤 正 子
	委員長職務代理者	清 水 俊 明
	委 員	田 嶋 幸 三
	委 員	坪 井 節 子
	委 員	小 川 賀 代

「説明のために出席した教育局職員」	教育推進部長	山 崎 克 己
	教育総務課長	吉 田 雄 大
	学 務 課 長	熱 田 直 道
	教育推進部副参事	川 西 宏 幸
	教育指導課長	松 原 修
	児童青少年課長	中 島 一 浩
	教育センター所長	矢 島 孝 幸
	真砂中央図書館長	川 崎 慎一郎

「書記」	庶 務 係 長	木 内 実三男
	庶 務 係 主 事	大 塚 功

平成30年

第9回教育委員会定例会

平成30年9月6日（木）午後2時

場 所 教育委員会室

議事録署名人 田嶋幸三委員

第1 議事録の承認

議事録第7号（平成30年第7回定例会）

議事録第8号（平成30年第8回定例会）

第2 議案の審議

第34号議案 「関東教育学会第66回大会」の後援名義使用承認について

第35号議案 「書物復権11社の会セミナー「女性編集者と学生が語る『本』をめぐる業界の今！」の後援名義使用承認について

第36号議案 「第18回 NEC チャリティーコンサート」の後援名義使用承認について

第37号議案 「第59回日本児童青年精神医学会総会」の後援名義使用承認について

第3 報告事項

(1) 叙勲等候補者の推薦について (資料第1号・非公表)

(2) 平成30年度全国学力・学習状況調査結果及び平成30年度文京区学習内容定着状況調査結果について (資料第2号)

4 その他の事項

《参考資料》事業（行事）実施状況及び各施設の利用状況等

「開 会」

(14 : 03)

○佐藤教育長 それでは、第9回教育委員会定例会を始めさせていただきます。

まず、出席状況の確認です。委員は全員出席いただいております。理事者も全員出席です。

本日の議事録署名人でございますが、田嶋委員にお願いしたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

(はい)

第1 議事録の承認

議事録第7号（平成30年第7回定例会）

議事録第8号（平成30年第8回定例会）

○佐藤教育長 それでは、早速議事に入りたいと思っております。まず、議事日程の第1「議事録の承認」でございます。

議事録の第7号と第8号でございます。お手元にあるかと思っております。事前にご確認いただいておりますが、なお訂正の必要がありましたら、この会の終了までにお申し出いただきたいと存じます。よろしくお願ひいたします。

第2 議案の審議

第34号議案 「関東教育学会第66回大会」の後援名義使用承認について

○佐藤教育長 それでは、議案の審議に入らせていただきます。本日は4件でございます。

第34号議案「「関東教育学会第66回大会」の後援名義使用承認について」、この件について、説明をお願いいたします。

○教育推進部長 ただいま議題となりました第34号議案、「関東教育学会第66回大会」の後援名義使用承認につきまして、提案理由をご説明いたします。

1 ページの後援名義使用申請書をご覧ください。

申請団体は、関東教育学会。代表者は、吉田武男でございます。

事業名は、「関東教育学会第66回大会」。

平成30年11月24日の開催を予定しております。

実施場所は、東洋大学白山キャンパスでございます。

本事業は、教育に関する研究発表や、新学習指導要領のポイントである「主体的・対話的で深い学び」についての公開シンポジウムを通じ、参加した幼・小・中・高等学校教員の授業改善につなげることを目的としております。

対象者は、大学教員、幼・小・中・高等学校教員、大学院生、教育関連団体関係者。

参加費は、一般会員及び当日会員が 3000 円、院生会員が 1500 円でございます。なお、公開シンポジウムは無料でございます。

このほか、資料といたしまして、2～4 ページに申請団体及び事業の概要、5 ページに収支予算書、6～8 ページに会則がございます。

以上の内容を後援名義等使用承認要綱の規定に照らし、後援名義の使用を承認したいと考えるものでございます。よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○佐藤教育長 説明は終わりました。ただいまの説明につきまして、ご質問等ございますでしょうか。

○清水委員 支出の部で懇親会費 20 万円が計上されています。たしか、こういったものは支出として余りふさわしくないというこれまでのお話であったと思いますが、これに関してはいかがでしょうか。

○教育総務課長 そういった委員のご指摘もごもっともでございますけれども、この懇親会については、いわゆる飲み会といったものではないということでございますので、今回は問題になるような支出ではないだろうという判断をさせていただいたところでございます。

○佐藤教育長 ほかにいかがでしょうか。そのほか、特にご意見、ご質問等ございませんか。よろしいですか。

それでは、ただいまの件につきましては、提案理由のとおり認めてもよろしいでしょうか。

(異議なし)

○佐藤教育長 それでは、そのように決定させていただきます。

第 35 号議案 「書物復権11社の会セミナー「女性編集者と学生が語る『本』をめぐる業界の今！」の後援名義使用承認について

○佐藤教育長 続きまして、第35号議案「書物の復権11社の会セミナー「女性編集者と学生が語る『本』をめぐる業界の今！」の後援名義使用承認について」でございます。説明をお願いいたします。

○教育推進部長 ただいま議題となりました第 35 号議案、「書物復権 11 社の会セミナー「女性編集者と学生が語る『本』をめぐる業界の今！」の後援名義使用承認につきまして、提案理由をご説明いたします。

1 ページの後援名義使用申請書をご覧ください。

申請団体は、跡見学園女子大学。代表者は、笠原清志でございます。

事業名は、「書物復権 11 社の会セミナー「女性編集者と学生が語る『本』をめぐる業界の今！」。

平成 30 年 10 月 22 日の開催を予定しております。

実施場所は、跡見学園女子大学文京キャンパスでございます。

本事業は、学術出版の編集者と本に関心のある参加者とのディスカッションを通じて、出版業界や紙の本の今後について考えること等を目的としております。

対象は、跡見学園女子大学の学生及び学外一般の方々。

参加費は、無料でございます。

このほか、資料といたしまして、2 ページに実施要綱、3～4 ページに書物復権 11 社の会の事業実績、5 ページに役員名簿がございます。

以上の内容を後援名義等使用承認要綱の規定に照らし、後援名義の使用を承認したいと考えるものでございます。よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○佐藤教育長 ただいまの説明につきまして、ご質問等ございますでしょうか。

○清水委員 この予算書はないんですか。

○教育総務課長 今回、予算書を省略しているわけでございますけれども、会場、設備、備品等は跡見学園が自前のもので、講師料や謝礼は跡見学園及び 11 社の会の関係者のため、これもかかっていない。また、広報代については、文京スクエアの掲載や 11 社の会による広報ということで、実際費用がかかっておらず、予算を組んでいないため、今回は省略しているところでございます。

○佐藤教育長 いかがでしょうか。ほかにご質問等があれば。特によろしいですか。

それでは、お諮り申し上げます。ただいまの件について、提案理由のとおり認めてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○佐藤教育長 それでは、そのように決定させていただきます。

第 36 号議案 「第 18 回 N E C チャリティーコンサート」の後援名義使用承認について

○佐藤教育長 続きまして、第 36 号議案「第 18 回 N E C チャリティーコンサート」の後援名義使用承認について、説明をお願いいたします。

○**教育推進部長** ただいま議題となりました第 36 号議案、「第 18 回 N E C チャリティーコンサート」の後援名義使用承認につきまして、提案理由をご説明いたします。

1 ページの後援名義使用申請書をご覧ください。

申請団体は、日本電気株式会社。代表者は、飾森亜樹子でございます。

事業名は、「第 18 回 N E C チャリティーコンサート」。

平成 31 年 1 月 27 日の開催を予定しております。

実施場所は、文京シビックホール大ホールでございます。

本事業は、吹奏楽団によるチャリティーコンサートを実施することで、音楽を通じ、子どもたちの豊かな心を育む一助となるほか、社会福祉への意識の向上に貢献すること等を目的としております。

対象者は、W E B 等で事前公募した一般来場者。

参加費は、無料。チャリティーについては、当日募金箱を設置し、寄付を募るものでございます。

このほか、資料といたしまして、2 ページに企画書、3 ページに収支予算書、4 ページに役員名簿、5 ～ 8 ページに定款がございます。

以上の内容を後援名義等使用承認要綱の規定に照らし、後援名義の使用を承認したいと考えるものでございます。よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○**佐藤教育長** 説明は終わりました。ただいまの説明につきまして、ご質問等ございますでしょうか。特にございませんか。よろしいですか。

○**坪井委員** 手続のことです。対象者が参加予定人員 1500 名のうち、文京区民 100 組 200 名、これは W E B で事前公募するというのは、文京区がこうした手続をして、やるんですか。

○**教育総務課長** こちらの団体が行うということです。ちなみに文京区民の 100 組 200 名というのは、文京区民を 200 名に限るということではなく、もしキャパシティを超えて申し込みがあった場合には、会場が文京区のシビックホールでございますので、そういった事態に陥っても、文京区民枠として 100 組 200 名は確保しますという意味合いでございます。

○**佐藤教育長** ほか、よろしいでしょうか。何かあれば。

それでは、ただいまの件につきまして、提案理由のとおり認めてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○**佐藤教育長** それでは、そのように決定させていただきます。

第 37 号議案 「第 59 回日本児童青年精神医学会総会」の後援名義の使用承認について

○佐藤教育長 続きまして、第 37 号議案「第 59 回日本児童青年精神医学会総会」後援名義の使用承認について」でございます。説明をお願いいたします。

○教育推進部長 ただいま議題となりました第 37 号議案、「第 59 回日本児童青年精神医学会総会」の後援名義使用承認につきまして、提案理由をご説明いたします。

1 ページの後援名義使用申請書をご覧ください。

申請団体は、第 59 回日本児童青年精神医学会総会事務局。代表者は、金生由紀子でございます。

事業名は、「第 59 回日本児童青年精神医学会総会」。

平成 30 年 10 月 11 日から 10 月 13 日までの開催を予定しております。

実施場所は、東京大学本郷キャンパスでございます。

本事業は、子どもに関係するあらゆる分野の専門家による講演から、児童青年精神医学と、その近接領域に関する知識や情報を提供することで、参加者が子どもたちの現在と未来に貢献すること等を目的としております。

対象は、医師、教育関係者及び児童福祉関係者等でございます。

参加費は、会員が 1 万 2000 円、非会員が 1 万 4000 円、非会員の学生が 7000 円でございます。なお、無料公開セミナーのみの参加の場合、参加費は発生いたしません。

このほか、資料といたしまして、2～5 ページに開催概要、6 ページに予算書、7～15 ページに定款、16 ページに役員名簿がございます。

以上の内容を後援名義等使用承認要綱の規定に照らし、後援名義の使用を承認したいと考えるものでございます。よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○佐藤教育長 説明は終わりました。ただいまの説明につきまして、ご質問等あればお願いいたします。特によろしいでしょうか。確認すべきことはございせんか。よろしいですか。

それでは、お諮りします。ただいまの件につきまして、提案理由のとおり認めてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○佐藤教育長 それでは、そのように決定をさせていただきます。

第 3 報告事項

(1) 叙勲等候補者の推薦について

○佐藤教育長 続きまして、報告事項に入らせていただきます。2 件ございます。

1 件目、「叙勲等候補者の推薦について」。説明をお願いいたします。

○教育総務課長 それでは、資料第 1 号に基づきまして、叙勲等候補者の推薦について、ご報告申し上げます。

候補者の氏名、職名などについては、資料に記載しておるところでございますが、現在、推薦段階であることから、資料の取り扱いは非開示とさせていただいております。このため、傍聴の方々には、この資料についてのみお配りはしてございません。ご了承ください。

したがいまして、この場での氏名等の読み上げは省略をさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

推薦候補者についてはご覧のとおりの内容でございます。よろしくお願い申し上げます。

○佐藤教育長 ただいまの説明につきまして、何かご質問ございますでしょうか。確認しておきたいことがありましたら、お願いいたします。

○坪井委員 功績概要の教育委員会の表彰の中で立志賞というのがありますが、これはどういうものですか。

○教育総務課長 こちらは、資料を見ていただくとおり、職歴とか勤務年数が非常に短い方で、これから期待される若い方を奨励するという趣旨と聞いております。

○佐藤教育長 だから立志なんですね。志を立てるということですね。

○坪井委員 教員としての志を立てる、ですね。

○佐藤教育長 ほか、いかがでしょうか。この機会ですので、何か確認しておきたいことがありましたら、お願いいたします。特によろしいですか。

それでは、これで報告了承とさせていただきます。

(2) 平成 30 年度全国学力・学習状況調査結果及び平成 30 年度文京区学習内容定着状況調査結果について

○佐藤教育長 では、次の報告事項に移ります。報告事項 (2) 「平成 30 年度全国学力・学習状況調査結果及び平成 30 年度文京区学習内容定着状況調査結果について」でございます。説明をお願いいたします。

○教育指導課長 それでは、資料第 2 号によりまして、平成 30 年度全国学力・学習状況調査結果並びに平成 30 年度文京区学習内容定着状況調査結果について、ご報告申し上げます。

初めに、全国学力・学習状況調査結果についてご報告いたします。

1 ページ～5 ページまでが小学校、6 ページ～10 ページまでが中学校の結果概要及び正答数の分布となっております。

対象は、小学校第6 学年及び中学校第3 学年。実施科目は国語、算数または数学、理科の3 教科でございます。A、B とございますのは、A が主として知識、基礎的な内容、B が主としてその活用ということでございます。

まず、小学校についてでございます。1 ページをご覧ください。平均正答率はいずれも東京都、全国を上回る数値になってございます。

次に、国語A、B とともに表が3 つございますが、一番上の区分けが、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことなど、学習指導要領の3 領域と1 事項の分類、次が、評価の観点で区分けしたもの、3 番目が選択式、短答式、記述式という問題形式によって区分けしたものとなり、同じ調査結果を分類を変えて集計しているところでございます。

2 ページ、算数も同様に、それぞれの分類で示されております。今年度は3 年間隔で行われている理科も実施をされ、同様に示されております。

小学校につきましては、それぞれの分類項目において全て、東京都、全国を上回る結果が出てございます。これは昨年度とほぼ同様の結果でございます。特徴的な点といたしましては、算数B は全ての区分で都と区の平均正答率を約10 ポイント以上、上回っており、算数の活用において特に強みがあるということが言えます。これはさまざまな要因があると思いますが、例えば平成29 年度に導入した電子黒板とか、習熟度別指導の中で東京都のベーシックドリル等を活用して、基本的な内容の定着を図っているといった成果も1 つ出ているのかなと考えております。

3 ページ、4 ページ、5 ページは、正答数の分布図となります。国語、算数、理科のそれぞれが全国、東京都の山より文京区の山が右側にあるということがおわかりいただけるかと思えます。これは文京区では正答数の多い層が多いということでございます。

課題となる点については、無回答率が高かったものとして国語B、伝記を読み、自分の考えをまとめる問題。算数B、情報の関連づけと解釈、表現及び判断の問題。理科は食塩水を熱したときの食塩の蒸発について実験を通して導き出し結論を書く問題等は、無回答率が高かったところでございます。いずれも、自分の考えを明確にしたり、論理的に説明したり、まとめることに課題があり、そうした力を身につけさせていく必要があります。

次に、中学校です。6 ページ、7 ページをご覧ください。中学校も、分類、分析は小学校と同様でございます。中学校では、国語、数学の全ての項目で、東京都、全国の平均数値を上回っております。

しかし、右の一番下の理科は、短答式の問題で全国の平均値を 0.4 ポイント下回っているところがございます。特徴的な点としては、問題形式の観点で見ると、国語 B の読むこと、読む能力が都と比べ 5.9 ポイント、国と比べ 8.5 ポイント高くなっておりまして、このことから、読解に強みがあると言うことができます。

次に、8 ページ以降は正答数の分布図となっております。国語、数学、理科、それぞれが全国、東京都の山より文京区の山が右側となっております。これは小学校と同様に、文京区では正答数が多い層が多いということがございます。中学校においても、電子黒板はもちろん、学習支援として学生ボランティア等を活用しながら、数学の基礎クラスにおける支援とか、定期考査前の補助教室などを行って、学力の向上に努めているといった成果もあらわれていると考えております。

課題といたしましては、小学校と同様に、数学では事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題、理科では植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を記述する問題の無回答率が高く、数学的な内容や実験等の原因の記述について指導を充実させていく必要がございます。また、国語は漢字の書き取りにおいて無回答率の高い問題がございました。漢字の学習に興味を持たせ、繰り返しの練習を行うとともに、日常で文章を書く際に、漢字を正確に使わせる指導の必要があると考えます。

続いて、意識調査でございます。11 ページからが小学校、32 ページから中学校でございます。まず小学校でございますが、12 ページの (5) 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」については、昨年度と同様、東京都と全国を上回る結果になってございます。

15 ページの (14) 「平日 1 日当たりどれくらいの時間、勉強しているのか」の結果をご覧くださいますと、昨年同様、平日 2 時間以上学習している児童が 66.4%、1 時間以上を含めると 83.3% が学校の授業以外で学習していることがわかります。16 ページの (17) 「週末に何をして過ごすことが多いですか」の結果でも、49.2% が学習塾で勉強しており、「習い事 (スポーツに関する習い事を除く)」を含めると、84.2% が何らかの形で学習をしているということで、昨年同様、非常に高い通塾率であることがわかります。17 ページの (20) 「地域行事の参加」については、「当てはまる」の数値が文京区は都よりは高く、国に比べると少し低くなっているところがございます。

資料にはございませんが、平成 20 年度から 30 年度までの経年の変化について、「当てはまる」、「している」と回答している児童の割合が、この 10 年間で 10 ポイント以上、上がっている変化が顕著な項目についてお伝えをいたします。

「自分にはよいところがあると思いますか」は、プラス 13.1 ポイント、「学校の決まりを守っていますか」は、プラス 14.4 ポイント、「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか」は、プラス 16.5 ポイントとなります。

なお、経年変化で見た場合の課題としては、「将来の夢や目標を持っていますか」について、「当てはまる」と回答している児童の割合が、平成 25 年度以降減り続けているということが挙げられます。これは昨年度も同じようなご報告をさせていただいております。

続いて中学校に参ります。32 ページからでございます。（3）「将来の夢や目標を持っていますか」について、昨年度に比べると、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」を含めると 0.2 ポイントふえております。ただ、これも平成 25 年度から見ると減少しております。36 ページ、37 ページの（14）、（16）を見ていただくと、中学生も、東京都や全国に比べ、非常に多くの時間を学習、学習塾や習い事に充てているということがわかります。33 ページの（5）「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という項目が中学校のほうもでございます。東京都をわずかですが、上回っております。「当てはまる」の回答率は毎年少しずつ上がっておりまして、調査開始以来一番高い数値となっているところでございます。

中学校のほうも、資料にはございませんけれども、小学校と同様に、経年変化で変化が顕著なものについてお伝えします。

先ほどの「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」というのは、10 年間でプラス 27.7 ポイント、「家の人と学校での出来事について話をしますか」は、プラス 14.7 ポイントということでございます。いじめについては、各学校で未然防止、早期解決に努めているところで、その成果のあらわれでもあると考えられます。

以上が、全国学力・学習状況調査の結果でございます。

続きまして、平成 30 年度文京区「学習内容定着状況調査」結果について、ご報告いたします。52 ページ～57 ページとなっております。

調査対象は、小学校第 4 学年児童、中学校第 1 学年の生徒でございます。

実施科目は、国語、社会、算数または数学、理科の 4 教科でございます。

こちら全国の調査結果と同様に、全体的によい結果が出ております。また、小学校、中学校それぞれ意識調査の結果を抜粋して載せてございます。今年度から意識調査を全国の調査に合わせた形に変更し、学力との関連でも分析しております。

それでは、区の学力調査についてポイントになるところをご説明いたします。

まず、小学校、52 ページをご覧ください。国語につきましては、教科全体の正答率は 79.0、全国を 8.3 ポイント、目標値を 11.0 ポイント上回っております。課題といたしましては、作文の問題、特にローマ字ということで、新学習指導要領では、総合的な学習の時間におけるコンピューターで文字を入力することなどの学習と関連を図るということでローマ字を位置づけておりますので、そうしたところで指導の改善が求められております。

社会は、教科全体の正答率は 82.5%で、全国を 5.1 ポイント、目標値を 11.6 ポイント上回っております。後半の問題で無回答率が高くなるという傾向が見られましたことから、時間配分に関して、4年生ですので、まだなれてないところで課題があると考えられます。

算数は、教科全体での正答率は 81.4%で、全国を 6.5 ポイント、目標値を 14.2 ポイント上回っております。小問別に見ても、ほぼ全ての設問の正答率が全国を上回っているということから、こちらも習熟度別指導等の結果があらわれていると考えられます。

理科は、教科全体での正答率は 77.8%で、全国を 4.7 ポイント、目標値を 7.7 ポイント上回っております。無回答率が高かった設問は、鉄の缶とアルミニウムの缶を、磁石を使って区別できる理由を説明できるというものがありません。最終問題ということもあり、時間配分に課題があったことも考えられますが、ふだんから身近な事象において理由を考えたり、結果を予想したりするなど思考を言語化していくことが重要であると言えます。

次に、意識調査の結果です。53 ページ、54 ページでございます。特徴としては自分の意見を主張することができる児童が多いこと、また自律的な生活習慣とともに、家庭学習が身につけている児童が多いことが挙げられます。さらに、「自分のよさを言える」、「先生からほめられて、うれしかったことがある」、「話し合いをするとき、自分の意見を活発に発言する」、「テストで間違えた問題を、後で見直している」と肯定的に回答している児童ほど、平均正答率が高いことがわかります。これからも、より一層、教師が児童を認め、励ます指導を行っていき、主体的、対話的で深い学びを意識した授業改善が必要であると言えます。教育委員会といたしましても、学校訪問の際にこれからの教育を見据えた授業改善が行われるよう指導してまいります。

最後に、中学校でございます。55 ページをご覧ください。

国語は、教科全体の正答率は 73.3%で、全国を 4.3 ポイント、目標値を 7.1 ポイント上回っております。一方、正答率が 50%未満の生徒が 10.6%存在していることから、学力の底上げのための支援が必要であると言えます。小問別に見ると、漢字を書くことがここ 3 年間の課題となっております。ふだんから既習の漢字を使用する習慣を生徒に身につけさせる指導を行ってまいります。

社会科は、教科全体の正答率は66.2%で、全国を3.3ポイント、目標値を5.0ポイント上回っております。社会科においても、正答率50%未満の生徒が16.3%いるという状況で、小問別に見ますと、養殖業、太平洋ベルト、国際連合についての理解に課題が見られます。中学校1年生という発達段階からも、小学校における習熟度と関連させながら、新しく学習することをしっかり押さえ、効率よく指導していくことが効果的であると考えます。

数学は、教科全体の正答率は74.1%、全国を4.3ポイント、目標値を6.6ポイント上回っております。数学においても、正答率50%未満の生徒が19.3%いる状況です。学年が上がるごとに学力の二極化が進まないように習熟度別指導の内容を引き続き改善、工夫してまいります。

おめくりいただきまして、理科でございます。教科全体の正答率は65.9%、全国を1.9ポイント、目標値を3.3ポイント上回っております。中学校理科においても、記述式の問題に課題があるため、日ごろから思考を言語化していく活動を取り入れていくことを積極的に行うことが求められます。

56ページ、57ページ、意識調査の結果でございます。特徴としては、学校の勉強についておおむね理解している生徒や、わからない言葉を辞典などを引いて調べるという学習習慣が身についている生徒が多いことが挙げられます。また、学級では、授業に集中でき、掃除当番や係の仕事に責任を持って取り組み、先生の言うことを守っているという落ちついた学級の状況がうかがえます。

また、学級の友達のよさを表現することについて、消極的な状況であることもわかりました。今後、道徳教育や学級活動の充実を図っていく必要があると言えます。さらに、「自分にはよさがある。先生が認めてくれて、うれしかったことがある。話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言する。テストで間違えた問題を、後でやり直している。と肯定的に回答している生徒ほど、平均正答率が高い」ということで、今後も各学校において生徒が活躍できる場面を設定し、お互いに認め、励ます雰囲気づくりを大切にしながら、自己肯定感を高める指導を実践することが重要となります。

教育委員会といたしましても、さまざまな研修会の内容を充実させ、先生方が学校ですぐに実践できる知識や技能を身につけていただけるようにしていきたいと考えております。

最後に、公表の仕方でございますが、全国、区ともに、学校別の数値の公表はいたしませんけれども、学力調査結果、意識調査結果のペーパーにつきましては、昨年同様、ホームページにアップして公表する予定でございます。

以上でございます。

○佐藤教育長 資料第2号の説明は終わりました。ボリュームのある資料ですが、ただいまの説明につきまして、ご質問あるいは確認しておきたいことがありましたら、お願いいたします。

○小川委員 文京区のデータとして1つの数値であらわしていますが、この中でも学校による差があるのか、これを受け取った先生たちは、自分たちの学校の結果も、あわせて教えてもらえるものなのかどうかを教えてください。

○教育指導課長 データの結果については、学校ごとにお返しをしております。もちろん学校ごとに特徴的な結果はあらわれますけれども、年度によって変わりますので、固定的にどの学校がどうということではないと思います。

○小川委員 その学校からすると、文京区の平均値と自分の学校の値の両方を知って、自分たちの教育をどのように改革するかということでしょうか。

○教育指導課長 各学校で授業改善推進プランを作成しておりますので、そういったときにこういう学力調査の結果を生かしていくということになります。

○坪井委員 学力以外の調査の部分ですが、56 ページの中学校の最後の「自分には、いいところがあると思いますか」という質問で、「分からない」とか「ひとつもない」と答える子どもさんが結構あると見られるわけです。誰がどう答えたかというのは、先生たちはかかわりがない？

○教育指導課長 それはわかります。

○坪井委員 そういう子どもさんが、自己有用感を持ってないとなったときに、どういう働きかけを先生たちはなさるのでしょうか。

○教育指導課長 質問紙というのは、なかなか難しいところがありまして、自分にはいいところが本当はあるんだけど、あるとなかなか書けないお子さんとか、それぞれ個々に違いますので、その結果が、イコールそのまま指導ということではないんですが、教員としてはそれぞれのお子さんの特徴をつかみながら、いろんな指導の場面で生かしていく。1つのことをピンポイントで何か指導するということではないのかなと思います。

○坪井委員 この調査だけではないけれども、日常的に見ていても、このお子さんは、自分に自信を持っていないなということを見てとっていき、その参考資料にももちろんなるわけですね。自分をそういうふうに評価する子なんだと。

○教育指導課長 当然、ふだんの教員の見とりというのがありますが、こういうテストなどをやったときに教師の捉えと子ども自身の思いが違うなというところを教師としても意識をして今後の指導に生かしていくことになると思います。

○清水委員 大変貴重なデータであり、これをもとに指導を変えていく、あるいは指導を強化していくということでもいいかなと思いますが、具体的にどのように指導して、その指導がどのように実践さ

れて、その結果がどういうふうに出たかというところまで見ていく必要があると思います。それはなかなか難しいところだと思いますが、どのようにやっていくお考えでしょうか。

○教育指導課長 ご報告の中でも、経年変化を教育委員会としても見ておりますし、各学校で経年変化を見ながら、この調査は全国であれば6年生とか、区の調査であれば4年生ということで、子どもたちが毎年変わってまいりますので、ことし4年生の子であれば区の調査を受けたわけですが、来年は都の調査を受け、6年生になれば国の調査を受けるということで、そこを追いながらやっていくということでございます。学力についてははっきりと点数などでわかりやすい部分もありますが、意識調査については、その日の子どもの気分によっても随分違うところがあるかと思います。例えば来年度の学校教育の内容を校長が考えるときに、そういったところを生かして計画を立てていくところでございます。

○清水委員 もう1つ気になったのは、中学校の理科の短答式で、全国に比較して、東京も悪いし、文京区ですら悪かった。なぜこうなったかの考察はいかがでしょうか。

○教育指導課長 このあたり、これからさらに分析していく必要があるかと思いますが、国語、数学に比べて、理科だけが全国に比べて、東京や文京区が余りよくない。国語、数学については、全国に比べると、東京都がよくて、さらに文京区はいいという形になっていますので、1つの要因として、例えば高校受験の教科が、私立でいうと英数国であって理社がないような学校が多いということで、子どもたちの勉強しようという意識が、そういった受験教科に向きやすいというか、そういったところも1つあるのかなと思います。また、理科、社会が、国語や数学に比べて知識の定着に課題があると言えるかと思います。

○清水委員 塾に行っているお子さんが多いと思いますが、塾の内容としては、国語と数学は多いが、理科は塾では余りやってない、そういうことが理由というのはいかがでしょう。

○教育指導課長 そこまで調査はしておりませんが、確かに科目数がふえると負担もあるかなというところはございます。

○清水委員 もう1つ。小学校の全国あるいは東京都の差と比較して、中学校が縮むというのは、幾つか理由があると思いますが、1つの理由は、中学校受験して外に出るということですが、中学校での教育がどうなのかということも考えなくてはいけないと思います。最初は中学校3年のデータですが、あとのほうは中学校1年ですね。この動きを見ていると、同じように1年生もかなり差が縮まっているような気がします。その辺が3年になると、文京区の教育がよければ、もうちょっと開いてもいいような気がします。そのままいつているんだと、そこがちょっと問題かなと思います。違う試験

ですから、比較はできないんですが。1年、2年、3年で、その差が広がってくるような傾向があればいいかなと思いますが、その辺は検証できるんですか。

○教育指導課長 今そうした新しい視点をいただきましたので、分析をしていきたいと思いますが、例えば算数、数学で言ったときに、小学校で少しわからなくなってきたのが、中学校に行くとさらにわからなくなるという積み重ねの部分があります。また、漢字が今回課題というふうに出ましたように、苦手が広がっていかないように、二極化が進まないように中学校でもやっていく必要があると考えております。

○清水委員 最後に、秋田がいつも一番よくて、秋田と文京区とどっちがいいんですか。

○教育指導課長 今ちょっとそこは。

○清水委員 秋田が何でいいと考えられているんですか。

○教育指導課長 秋田に限定ではないんですが、とある県が非常にいいというお話があったときに、例えばこういう学力テストの前に同じような問題を少し練習させるとかいう話も聞こえてまいりますので、点数だけでは判断できない部分もあるのかなと思います。

○清水委員 この間テレビを見たら、「早寝、早起き、朝御飯」がいいんだと言ってましたが、本当かなと思ったんですが。

○教育指導課長 「早寝、早起き、朝御飯」をすれば成績が上がるのか、成績のいいご家庭でそういう習慣が身についているのか。どちらが原因で、どちらが結果なのか、わからないですけれども、確かに、東京都でも「早寝早起き朝ごはん」ということで、生活習慣については啓発を図っているところがございます。

○佐藤教育長 生活習慣とか読書習慣は非常に大切だというのはよく耳にはするんですが、何か分析できればいいんですが。

○坪井委員 きょうすぐでなくていいんですが、さっき後援名義のことで本のことがちょっと出ていました。本離れと言われてます。こういうシンポジウムはとても興味深いなと思ってます。本離れで私はとても心配してまして、図書館の利用がどういうふうに文京区の中できているんだろうか。ITの書籍を見られている子どもさんもありますが、文京区の図書館でITの書籍を見るようなものがあるのか。図書館利用で、子どもたちの本離れがならないような取り組みがどうなされているか。ちょっと教えていただきたいなと。

○真砂中央図書館長 本離れにつきましては、子どもの読書活動推進計画を策定しておりまして、今年度が3年目でございます。今、小中学校の学校図書館に対して、学校支援の司書の派遣を行ってお

ります。また、区立図書館の貸し出し数で言いますと、CDとか一般図書は落ち込む場合もありますが、児童図書については年々増加をしているところでございます。

2点目のIT、例えば電子図書ということも言われておりますが、課題としてまだ図書館で取り扱えるような点数が多くないというところで導入はしていないところでございます。全国区で聞くと80程度の自治体の図書館では取り扱っていると聞いておりますが、まだ一部にとどまっているところでございます。

○坪井委員 子どもさんたちの本離れじゃなくて、逆にちゃんと読んでいるわけですか。

○佐藤教育長 児童の図書資料の貸し出し数は、今回の資料で見ていくと、前年度比、この時期でいくと伸びてはいます。

○坪井委員 ちょっと安心しました。

○佐藤教育長 読むお子さんは本当にたくさん読んでいます。読むお子さんと、本を余り好きじゃないお子さんに分かれるのは余りよくないですね。皆さん満遍なく楽しんでいただけるといいと思うんですけど。

○小川委員 本のことですが、小学生は結構よく本を読むんです。子どものところで靴を脱いで、寝っ転がりながら読めるようなスペースも文京区の図書館は実際に用意してくださっているので、子どもが行って、本当に1時間とか2時間も本を読んでいる子がいると思います。本離れが始まってしまいうのは中学生ぐらいからかなと思っています。漢字の問題とかも、もしかすると、児童だけじゃなくて、青年期に向けての本に対するバックアップを図書館の中でも工夫できると、またちょっと変わってくることもあるかなと思いました。

○佐藤教育長 中央図書館長、何かあれば。

○真砂中央図書館長 今の小川委員のご指摘はまさにそのとおりでございまして、児童がふえていると申し上げましたが、赤ちゃん連れから小学校1、2年、3年生ぐらいまでは図書館にも非常に来ていただいて、行事に参加していただいている状況ですが、4年生を過ぎるぐらいから、恐らく塾の影響等があるのかなと思いますが、本が好きなお子さんは来てくれるけれども、急に減る。中学生、高校生ぐらいが一番来てくれなくなってしまっているのかなというところがございます。そのあたりは認識しておりまして、真砂中央図書館は2年前に改修した際にヤングアダルトコーナーということで、中学生、高校生向けの本のコーナーをつくったり、それに合わせたイベント等は行っておりますので、まだちょっと道半ばかなと思っています。

○佐藤教育長 何かいい工夫、ご提案があればご示唆いただければと思います。特によろしいでしょうか。それでは、報告了承とさせていただきます。

本日用意した案件はこの2つでございました。

第4 その他の事項

○佐藤教育長 「その他の事項」は、特に事前にはいただいておりませんが、何かございますでしょうか。

その他は特にないということでございますので、第9回の定例会はこれをもって終了とさせていただきます。

(14 : 52)

平成 30 年 9 月 6 日

議事録署名人

教育長

委員